

1. 2030招致のこれまでの動き

■ 市民意向調査

➢ 2022年3月 市民意向調査を実施（郵送調査：賛成52.2%、反対38.2%）

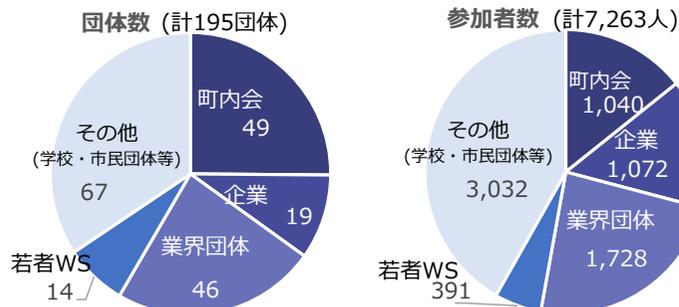
■ プロモーション委員会

➢ 大会の開催意義を伝え、多くの理解と共感を得ながら、オールジャパンで招致を推進するため、① **大会開催意義の議論・取りまとめ**、② **招致機運醸成**を目的に設立。JOC、札幌市・北海道、国、関係団体、経済団体等から構成されており、これまで5回の会議を実施



■ 市民との対話

- 企業向けや町内会向けの「出前講座」を積極的に実施するとともに、20代の若者を対象に、ワークショップ(WS)を開催
- 大会の開催意義や将来のまちの姿を考える機会を提供し、そこで得られた意見(アイデア)を大会概要(案)に反映



■ 透明性・公正性の高い組織運営の実現に向けて

- ◆ 2022年9月8日にJOCと札幌市が連名で、大会の組織及び運営面における改革に取り組んでいく決意を示すための宣言文を発表
- ◆ 透明性・公正性の高い組織運営の実現に向けた検討に積極的に協力していくとともに、市民国民への丁寧な説明に引き続きしっかりと取り組む

【宣言文の概要】

➢ 2030大会の組織委員会を設立する際には、以下の事項等について検討し、組織運営における透明性・公正性の確保と対外的な説明責任を果たすための体制を整える。

- (1) 組織委員会理事会について
適正な理事会の規模の確保、理事会の役割の明確化、役員候補者選定委員会による役員の選考等
- (2) 利益相反取引の管理について
利益相反に関する考え方の明確化（ポリシーの策定等）及び利益相反取引の管理の体制の整備（委員会の設置等）
- (3) マーケティング事業の在り方について
適切な体制、広告代理店の役割、組織委員会としての意思決定プロセスの在り方等

➢ 2030大会の開催が決定した場合には、より多くのステークホルダーを巻き込んだ議論が必要になることから、関係機関と協議しながら検討体制を整備し、具体的な対応案を検討していく。

※R3.11～R4.11.1現在

2. 今後のスケジュール

- ◆ IOCの「将来開催地委員会」との2段階の対話プロセスを経たのち、IOC総会で開催地が決定
- ◆ 開催地契約締結後5カ月以内に組織委員会を設立



(参考) 大会概要 (案) 更新版 (2022年11月8日公表)

■ 招致スローガン

世界が驚く、冬にしよう。

世界中を驚かすような、世界に誇れる様々なチャレンジをしていく決意、新しい大会や未来をみんなでつくろうという前向きな想いを込めたもの。

■ 大会コンセプト

(1) 天然雪を守り、北海道・札幌から、世界に誇れる大会に。

- SDGsや気候変動対策の目標年へ、私たちの誇りである豊富な天然雪と豊かな自然を守り、夢や希望を描ける未来を子どもたちに残したい。

(2) 私が自分らしく生きられるまちで、社会で、誰もが参加できる大会に。

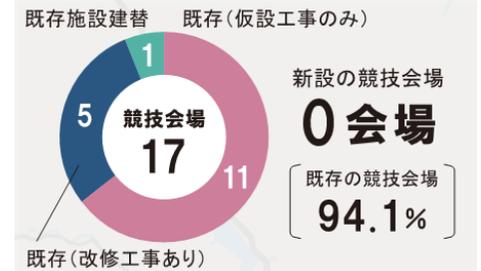
- 誰もが生涯健康で、誰もが互いを認め、協力し合える社会にしたい。ジェンダー平等を進め、アイヌの人々とともに、多様性が生み出す価値を世界と分かち合いたい。

(3) 北海道・札幌が挑戦する、私たちの新しい大会に。

- 既成概念にとらわれない新たな挑戦。まちに合わせて大会を開催。スポーツの本質と価値に集中できる徹底的に合理的な計画で、歴史の転換点だったと人々が記憶する大会に。

■ 会場配置計画

- ◆ 1972年大会時の会場等、すでに市民利用されている施設を最大限活用
- ◆ 都心の近くでウィンタースポーツを楽しめる、札幌の特徴を活かした計画
- ◆ 市内に開催に適した施設が無い競技・種目は、市外の既存施設を活用（長野・帯広・ニセコ）
- ◆ 樹木の伐採等は最小限に



■ 大会運営費 (組織委員会予算) の試算

- ◆ 原則、税金は投入しない
- ◆ 不測の事態への対応のため、予備費を確保
- ◆ 収入に見合った効率的な大会運営

項目	億円	項目	億円
IOC負担金、TOPスポンサー	920	仮設費用 (観客席増設等)	630
国内スポンサー	800~1,000	その他 (輸送・宿泊・セキュリティ等)	1,370
その他 (チケット等)	480	予備費	200~400
収入 合計	2,200~2,400	支出 合計	2,200~2,400